

授業科目：総義歯補綴学－顎機能のバイオメカニクスと顎機能障害－

担当教員：飯沼 利光，高津 匡樹，池田 貴之，浦田健太郎，西尾 健介

授業のねらい	<p>下顎運動制限や開閉口時における関節雑音などの臨床症状を呈し、診査の結果で顎機能障害と診断できる患者は年々増加している。しかも、その予備軍と推察される潜在患者が多数存在することは、周知の事実である。この様に歯科第三の疾患として注目されている顎機能障害は、その発症過程に不明な点が未だ多く、診査・診断および治療に際しては、顎機能が骨、筋、神経等の複数の組織による複雑な協調機能として成り立っているため、そのメカニズムを十分に理解することが重要となる。</p> <p>本授業では①顎機能を営む各組織の形態的・機能的役割、②顎機能遂行の協調作用の運動学的および力学的な検討、③顎機能障害が発症した場合の発症過程の検討、④顎機能障害患者診査・診断および治療のための手順、データの収集、治療方針の決定が的確に行えることを目標としている。顎機能障害は 21 世紀の歯科医療で非常にニーズが高く、重要なテーマの一つであり、積極的に臨んでもらうことを期待している。</p>
テーマ：	<p>① 顎機能の運動学的および力学的特徴を理解する。</p> <p>② 顎機能分析法について理解する。</p> <p>③ 顎機能障害の臨床的症候と運動学的および力学的な分析結果との関係を理解する。</p> <p>④ 症例に対し分析結果を応用して治療計画の立案を行う。</p>
内容：	<p>① 顎機能を構成する骨・筋・脈管・神経について理解し、相互関係を運動学的および力学的に学び、協調活動の実態を理解する。</p> <p>② 顎機能の運動学的及び力学的解析結果から、顎機能障害発症過程について考察する。開口障害、疼痛、関節雑音など顎機能障害の臨床的症候について、顎機能の運動学的および力学的解析結果から検討を行い、臨床における具体的対応法を学ぶ。</p>
成績評価：	<p>解剖学的あるいは形態学的知識についてのテスト (20%)</p> <p>顎機能の運動学的および力学的な解析能力の評価 (50%)</p> <p>症例を基にした討議への参画についての評価 (30%)</p>
その他：	<p>参考資料；顎関節機能解剖図譜 (クインテッセンス出版)</p> <p>顎口腔機能分析の基礎とその応用 (デンタルダイヤモンド社)</p> <p>Fundamentals of Occlusion and Temporomandibular Disorders (C.V. Mosby)</p>